

「舞鶴かき小屋：美味星（おいすたあ）」（西村）

暦の上では立春を迎えましたが、まだまだ寒さも厳しく、暖かい春が待ち遠しい日々です。先日、これからの季節、最も美味しくなると言われる『牡蠣』を食べに、舞鶴のかき小屋へ行ってきました。舞鶴湾は山々に囲まれている為、ミネラル豊富な清水が流れ込み、牡蠣のエサとなるプランクトンが豊富で、多くの天然マガキが生息しているそうです。また、養殖のかき小屋は全国に沢山ありますが、天然マガキが食べられるこのお店は、全国でも珍しいそうです。店内は大漁旗で飾られ、大きな鉄板に牡蠣が投入されて蒸し上がるまで待つこと約 20 分。立ち上がる湯気の中で漁師さんが手際よく牡蠣を開けてくれますので、食べることに専念できました。缶ビールと一緒に味わったプリプリの牡蠣はとても濃厚で、亜鉛・タウリン効果で疲労回復できました。



## 今さら聞けない 経済用語

### 【今月の教えてキーワード：政策減税】

国の特定の政策目的のために期限を設けて減税すること。正式名称は「租税特別措置」。毎年、年末に行われる税制改正議論で各種政策減税の新設や延長が決まるが、中小企業向けの政策減税については延長を繰り返すことでなかば恒久化しているものが多かったり、特定の業界や地域が対象になるものも多い。2014 年度は法人税を安くする措置だけで 87 項目あり、政策減税による法人税収は 2 兆 587 億円ほど減ったとされている。

## 偉大なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

### 【信念を貫き通した人生：日蓮】

法華經の教えを広め今に受け継がれる日蓮宗の基礎を築いた日蓮は 1222 年、千葉県安房郡小湊（現在の鴨川市）の漁師の家に生まれたと伝えら



れています。鎌倉時代の初期、戦乱や地震、疫病といった災厄が続き、人々は「仏の恵みも届かぬ末法の世」と思い悩んでいた頃でした。日蓮は 11 歳で清澄寺に入山し、住職・道善房を師として初等教育を受けました。ここで当時、流行していた浄土宗に触れ当初は信仰していた

ものの「死後に極楽浄土に行ける」という教えに疑問を抱きます。15 歳で出家して仏教を学ぶために遊学を始めた日蓮は、鎌倉で浄土宗や禅宗を学び、その後、法然や親鸞、道元らも学んだ天台宗の総本山・比叡山を拠点に修学を重ねます。この頃に膨大な量の仏教書籍『一切経』も読破。全ての經典の中で法華經が最も尊いという確信を得た日蓮は、法華經信仰を広めることを決意し 31 歳で立教開宗しました。来世での救済を説く浄土宗を厳しく批判して「現世にこそ救いの道がある」と訴えます。他の宗派を許さず『立正安国論』を上程して国に対しても強く自身の信念を訴えますが、浄土信者や幕府から厳しい迫害を受け、衣食にも事欠く貧しい生活の中 60 歳でこの世を去りました。「まず臨終の事を習うて後に他事を習うべし」という言葉からも、国を救おうという強い信念と信仰の深さが感じられます。

### 今を生きる 先人の言葉

学問の量に  
しがみつくな

落語家である 7 代目・立川談志の言葉。教科書どおりに事が運ぶことは少ない。机上の知識や他人の入れ知恵に頼ることなく、自分の判断で事にあたるのが大切だ。

